

電動車椅子とおじいさん

KOHMORI 直人

2008年12月27日土曜日夜、

中学同級のHと年内で店を閉店する居酒屋で最後の晩酌を交わし、看板まで呑みマスターに事務所前まで送ってもらった。時間は午前3時。暮れの夜は一段と冷えていて酔いも冷める気温だった。

事務所に寄る予定だったが、酔っているし、寒さもきびしかったので、そのまま歩いて2,3分の自宅へと向かった。薬局屋の角を曲がった時、声が耳に入った、小さく、かすれた声で、だれか、たすけて～あたりを見回したがだれもない？・・・そら耳かな？と、歩き出した時また声が聞こえた・・・

だっ、だれか～たすけて～今度ははっきり聞こえた、私はあたりを見回し自動販売機の後ろに横たわるおじいさんを見つけた、思わず、えっ、何でこんなところに、っと思うほどの所に横たわっていた。街灯もなく、自動販売機の裏側で、陰に隠れて、歩道、車道からは死角になっているので、わからない場所だった。発見した時思わず、おじいさん？なんで？どうしたんですか？ その想像もつかないかっこうで、横には電動車椅子があったが、ひざ掛けや、帽子、手袋は飛んでいた。

おじいさんに声をかけ、警察か、救急車を呼びましょうか、とたずねると、大丈夫だから車椅子に乗せて欲しいといい、私は横たわるおじいさんを車椅子に座らせ、落ちていた、帽子をかぶせ、手袋、ひざ掛けをかけた。

寒さで震えている身体をさすってあげ、風が入らないよう、衣服のチャックをしっかりと閉めた所で、どうされたんですかと、たずねると、夜車椅子で、散歩をしていたら、電動車椅子のバッテリーが突然無くなり、動かなくなったしまったんだ、あたりを見回したが夜遅くで、だれもないので不自由な身体で車椅子を手動にして、バッテリーを充電出来る所を探したら、薬局屋の自動販売機が目に入りそこで充電しようとした時、バランスを崩し車椅子から転げ落ちてしまったんだと。

おじいさんは何度も、靴音がするたびに助けを求めたが、だれも気付かなかったと、だんだんと身体は冷え、声もかすれ、意識はもうろうと、もうだめだ、と思い始めたとき、靴音が近づいて来たので、最後の力を振り絞り、だれか～たすけて～ と2回叫んだんだ、そして、それが私だったんです。

おじいさんの言われるままに、充電器をコンセントに差込み、話を聞いた。

話を聞くうちに、なぜ？深夜に、しかも真冬の寒空に一人で散歩に出たのか、だんだんと謎が解けてきました。奥さんと、二人暮らし、少ない年金で生活し、身体の不自由なおじいさんは、自分一人では何も出来なく、奥さんを頼りにするしか、生きていく術が無いのです。奥方は賢いのか、鬼なのか知る人はおじいさん、ただ一人。寒空の夜に散歩とは家にいるより休まるのかいろいろ話してくれている間も人通は無く、車の行き来も無い、もし

私がおじいさんを見つけていなかったら、と思うと、今日一日の行動一つ一つに意味が有るのだなと感じてしまった。

充電がいっぱいになった頃には、明け方 5 時過ぎになっており、酔いもすっかり冷め、おじいさんの身の上相談を聞き、慰め、元気を出して頑張ってくださいといい、上機嫌になったおじいさんに、最後にお名前は？と聞くと、私の名前は、西郷です、西郷隆盛の末祖です。

私の子供は小さい時に米軍の車に引かれ亡くなりました、だから私の代で最後ですと。

すっかりおじいさんの生い立ちを聞きながら、充電器を車椅子にセットし、手動から自動へ切り替え正常に動くことを確認して、おじいさんに、もう夜遅く車椅子で散歩は控えたほうがいいと忠告した。

もう家に帰るといい、おじいさんは最後に、神様ありがとうございました。と私に向かって頭を下げました。うっすら明るくなり始めた空には雲ひとつ無く、清々しい朝 ゆっくり進むおじいさんの背中を、見えなくなるまで追っていた私は、もし私がここを通らなかったら、と思うとゾットする。そして、神様ありがとうございました。と云った、おじいさんには何が見えていたんだろう。

その日以来薬局屋の角を通る度、私は自動販売機の裏を確認しないと、なぜか一日が終わらないと言うか、不安な気持ちになっておちおち寝てられなくなってしまった。

そして、居酒屋のマスターは体調を崩して、年明けの 1 月入院したとHから連絡があった。

軽い心筋梗塞で、管を 2 本入れる手術をし、経過は良いと聞き、ホットしている。

マスターもこのご時世で気苦労が溜まっていたに違いない。ゆっくり静養して、元気になったら又、店をオープンしてほしい、美味しい料理も食べたい。もちろんお酒も。……